

# CSSD information

メディコム CSSD インフォメーション

## 滅菌管理(中央材料室)業務の理解と 作業のポイント:入門編



広島感染防止及び滅菌業務研究会 会長

下前 恵 先生による

### 「組立業務のポイント」

皆様、こんにちは。

今回は組立業務のポイントについてお話します。

#### 1:組立の目的

- ・洗浄した器材がきれいに洗えているかを確認します。
- ・器械がその役割を果たせるか確認します。

#### 2:残留蛋白質量

滅菌管理部門に返却される器材の汚染はほとんどが蛋白質です。従って、蛋白質が器材に残っていないか確認をする必要があります。

これを「残留蛋白質量の検査」といいます。汚れは目視で見えなくても検査をすると数値的に汚れが残っていることがあります。

日本医療機器学会の医療現場における滅菌保証のガイドラインでは「残留蛋白質量が200 $\mu$ g以下であることを確認する」と勧告しています。



残留蛋白質量ってなんか難しいですね!  
簡単にわかるんですか?

はい!定量検査は器材についている汚れを直接検査して数値で表示します。でもこの検査は専門の検査機関に提出しないと個人では困難を極めます。



でも、簡単にできる半定量検査もあります。アミドブラック染色法は簡単にできて直ぐに判定ができます。洗浄後の器械に専用の液体をかけて流水でそれを流し、残った色素の色から汚れがどれだけ残っているかがわかるんですよ。

洗浄後でも器材に汚れが残っていれば、再度洗浄を行う必要があります。

洗浄後の器材に汚染が残っていたら、その後の滅菌の結果に影響を及ぼします。



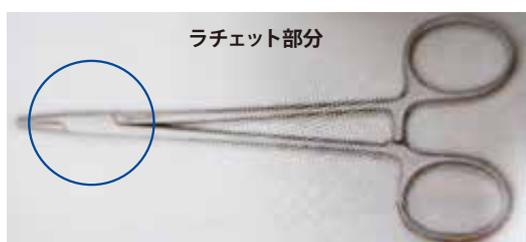
滅菌に影響があるって、洗浄って大切なんですね。  
たかが洗浄ではなく、されど洗浄ですね!!

### 3: 器械のメンテナンス

器械がその性能を維持しているかを確認します。確認は洗浄後のすべての器械1本毎に行います。

#### 確認する項目

- ・剪刀類の切れ味はよいか、刃こぼれ等の不具合はみられないか。
- ・ラチェット部分のゆるみはないか。
- ・器械の先端が合致しているか。
- ・器械に亀裂や孔食などがなくないか。
- ・錆の発生はないか。
- ・器械がその役割をはたせるか。
- ・コードの断裂や駆動器の作動不良等がないか。



手術で使用する器械は性能が維持されていることが最低条件です。医師により良い手術をおこなって頂くためにも性能の良い器械の提供は必須ですね。器械の良し悪しが手術の結果を左右するかもしれません。



私達も手術に参加しているみたいですね!! 私が手術を受ける時は性能の良い器械で手術してもらいたいです。

### 4: 器械の組立

手術器械などをセットする時には、器械の数や付属品が確実にそろっていることが重要です。それらをセットした結果が確認できるチェック表を使用するのも一つの方法です。

手術室では体内遺残防止の対策を行うことは医療事故を未然に防ぐことにつながります。体内に器械を残してしまう事例は忘れた頃に発生しています。その為の対策の一環として、セットした器材数やネジなどの付属品の有無を確認しておくことは重要です。



お腹の中に器械やガーゼが残っていた事例は報道で見たことがあります。自分が完璧と思っただけではいけないんですね。それを確認できる方法が必要なんですね! ますます、手術に参加している気持ちになりました!!

### 5: 包装について

包装についても医療機器学会からガイドラインが出されています。滅菌する器械を患者さんに使用するまで清潔にしておくものです。

#### 包装の種類

滅菌バック	滅菌バックに対して中に入れる器材は最大7割程度を推奨。
ラップ材	滅菌保持のために不織布の2重包装を推奨
滅菌コンテナ	フィルターのあるタイプはフィルターを毎回交換、ゴムパッキンの点検が必要です。

一度使用したバックやラップ材の再使用はできません。見た目には異常が無くても滅菌剤によって破損しやすくなっている為です。使用する時に包装材が破れていたら清潔に保管できていないことになり、再度滅菌することになります。



えー! 破れてなかったら使えそうですが、もったいない感じがするんです。でも、すぐに使わなければいけないのに手術に間に合いませんね。そんなリスクをおかすことはしたくないので、使用済の包装材の再使用はやめまーす。

綿布での包装は推奨されていません  
綿布の糸の織り方により布に大きな隙間ができてしまい、微生物にとっても侵入しやすい包装材となります。

